

特集

# それは明日かもしれない

地震、集中豪雨、竜巻・突風、台風、土砂崩れ、河川の氾濫、噴火：

こうしたリスクと共存する私たち。この地に住み続ける限り、自然災害と向き合わなければなりません。いつ起こるか分からない脅威の前に、「自分は大丈夫」。こんな他人事に思っていないでしょうか。明日かもしれないそのときのために、私たちが今できることは何なのでしょう。



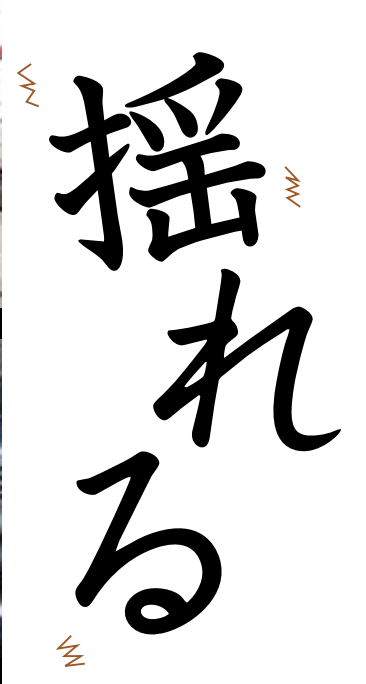
1

# 地震列島

# 揺れる



3



4



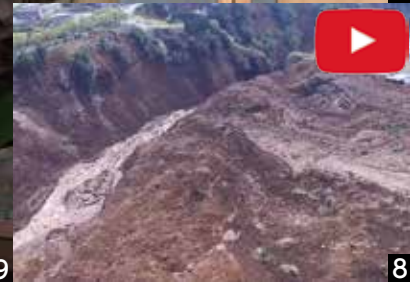
5



7



8



9

4.14 21:26  
4.16 01:25

- 16 阿蘇市内の地割れ
- 2 倒壊した熊本城・北十八間櫓
- 3 59 甚大な被害を受けた益城町の光景
- 4 頑丈と思われた商店街のアーケードも崩壊した
- 7 アウトドアメーカーから提供されたテントが並ぶ(御船町:6月16日)
- 8 阿蘇大橋の土砂崩れ(出典:国土地理院) >> Youtube動画→



**ゴゴゴ** それは突然でした。本震と思われた1回目の揺れの約28時間後、予兆となる地鳴りを感じてすぐ、M7.3の直下型地震が熊本地方を襲撃。

連日報道される被災の状況。画面に映る光景を見て「うわあひどいね」と思いながらも他人事に見てしまう。「うちは今までも被災したことがないから大丈夫」

「海沿いじゃないから大きな地震や津波の心配もない」被災者の多くは「自分が被災すると思っていなかった」と声を揃えて言います。熊本地震は30年以内の発生確率が最大で0.9%、地震学的に見れば「やや高い」と評価されていましたが、60%を超える南海トラフ地震よりも先に、突如牙をむきました。

災害に絶対はない。被災の経験が私たちに教えてくれるのは、備えがあれば被害を最小限にとどめることができること。いつ起こるか分からない脅威とどう向き合うか、それもあなたの選択次第です。



4月22日、市ではトラック協会の協力のもと、被災地に向けて支援物資を搬送。約2カ月間に皆さんから寄付いただいた義援金(計743,966円)も被災地に送金しました。

## 明日は我が身 今できることを考える必要性を意識



被災地に支援物資を届けた本間 幸次さん(東関根)

熊本県益城町を目指して4月22日午後3時に那須塩原を出発し、翌昼過ぎに熊本に入りました。高速インターを降りると、自衛隊や警察車両のほか、ボランティアや被災者の親族と思われる県外ナンバーの車両で大渋滞。街中では、崩れた建物、ガラスのない工場、波打つ路面など、揺れに襲われたことを物語る光景が見受けられました。「いつかやらなきゃ」と、頭では備えの必要性を理解していても、なかなか行動に移せていません。被災経験を今後の糧にするためにも、これから自分たちにできることは何か、まずは家族間で話し合えればと思いました。